

2019年3月8日

多摩市教育長 清水哲也様
教育部長 須田雄次郎様

多摩市の社会教育を考える会
代表 荒井 容子

《多摩市立図書館本館再整備基本・実施設計の今後の進め方についてのお願い》

本年1月31日に、「多摩市立図書館本館再整備基本・実施設計業務委託プロポーザル審査委員会」において審査、選定された最適受託候補者と契約したとのことですが、図書館職員と市民とともにすすめる図書館づくり、今後の設計作業の方法と進め方について、以下のことを要望いたします。

* 市が契約した「株式会社 佐藤総合計画」の審査時のプロポーザル案について、図書館利用者や市民グループへの説明会を早々に開催してください。

このたびの基本・実施設計業務委託に係るプロポーザル審査の第一次審査では企画提案の内容に「市民意見を反映していく設計業務の進め方」も課題とされていました。第二次審査でのヒアリングでも「市民が設計や建設に参画するための手法」が問われたとあります。設計者が「多摩市立図書館本館再構築基本構想」や「多摩市立図書館本館再整備基本計画」をどのように理解し、市民とともにどのように進めるか、まず市民の前に明らかにすることこそ、基本設計・実施設計の第一歩となると考えます。

* 本館再整備に向けて市民の関心をたかめる施策を積極的に展開してください。

「基本構想」では、「第4章中央図書館づくりの進め方」の1に、図書館計画に欠かせない4つの視点をあげ、その一つに「人と資料と場の計画と、その企画・運営に、多様な意見を受け入れなければならない図書館計画の工程には、『市民性』が必要です。」と提言されています。また、「基本計画」においても「4章基本計画の具体化に向けて」の①-2で多摩市の中央図書館整備計画には、市民とともに進める姿勢を明確に打ち出しているとして「将来の市民の意見も想像しながら、この取り組みを、図書館の完成まで持続させ、また新しい図書館のサービスが始まってからも市民にしっかり図書館を支えてもらえるようにしたい。」と明言されています。基本設計をまとめるまでに節目ごとに設計者・図書館職員・市民が意見を交わす機会を作ったり、図書館本館が完成した後、4館の地域図書館を含めた新しい図書館ネットワークでのサービスの展開等、市民が学習しながら要望をだせる仕組みを作ることも必要と考えます。具体的な施策をご提示ください。

以上、文書にてご回答ください。ご回答の折にぜひ当会との面談の時間をつくってくださるよう希望します。